

# NVC Monthly

同好会ニュース

寢屋川映像同好会会報

第47号(20130517)

発行 竹田 幸男



映像協会有馬撮影会 有馬グランドホテル 2013.5.8

例会の窓

平成25年5月例会

日時 平成25年5月17日(金)

13:30~16:30

場所 寢屋川市民活動センター

4階 ワーキングスペース

出席者：新井 石田 竹下 竹田 谷 田淵

欠席者：2名（50音順・敬称略）

## 例会次第

1．各会員の最近の活動状況・情報交換

2．活動・連絡・協議事項

（1）NVC Monthly 5月記事筆者の件（田淵さん）

（2）今日は大阪市内支部 富田さんが参加された。

（3）大阪アマチュア映像連盟幹事の変更

・小笠原さんが退会のため谷さんに。

（4）撮影会プロジェクトチームから（天野／新井）

・有馬温泉撮影会の結果と反省

・同好会から6名、映像寝屋川から女性2人参加。

・有馬温泉グランドホテルのランチが好評だった。撮影時間が後1時間ほどほしかった。

・次回は映像寝屋川の方に任せる。

・今日は、新井さんが作品を持ってこられた。

（5）第6回ビデオ作品発表会の結果と反省

・次は26年秋

・良い作品、良いテーマの準備を

（6）第9回 寝屋川映像フェスティバル

・平成26年5月31日（土曜日）に決定

（7）市民文化祭作品を9月例会で締め切る。

（8）ふれあいフェスタ対策を

・囲碁将棋大会の状況は？新井さんが撮影に参加された。

・毎日曜日に市民会館で大会をされているのでのぞいてみられたら良い。

（9）富田さんを囲んでの自己紹介と今後の対応

・富田さんは、まだ編集経過縁が無いので、どのようなソフトを使うのがいいのか検討した。

### 3 . 映写・合評

#### ( 1 ) 新井さん 有馬 「彼女の回想」 3分

- ・コンピュータ音声によるナレーション。
- ・ハイビジョン撮影で編集した作品をDVDに入れられた。
- ・映像が少し尾を引くように感じられる。
- ・せっかくHDで撮影されたので編集画面からSDカードに取り込みHDカメラから再生するように設定されたらもっと高画質になる。
- ・ナレーションは人工音声を使うなら、天野さんがやったようにHOYAの音声合成ソフトのデモンストレーションを利用するか、一太郎の付属ソフトを利用すればもっと自然な感じになると思う。

#### ( 2 ) 富田さん 奈良 「お水取り」 10分

- ・撮影しただけで編集はされていない。
- ・音楽とナレーションがほしい。周囲の人の声はもっと抑えたい。
- ・昼間から出かけて行ったというストーリーで作ると良い作品になるのでは。

#### ( 3 ) 富田さん 「ハウスステンボス」 10分

- ・これも編集はされていないが、映像がきれい。
- ・ナレーションがあるといい。
- ・カメラホールドが安定しているので良い所を残して編集すれば良い作品になる。現地音を下げた雰囲気のあるBGMを付けるとすばらしい。

### 4 . 会員の当面する問題点質疑応答

#### ( 1 ) 同好会に入会の場合、家族だけでなく、親族でもよいことにする。

- ・将来は「孫」も視野に。
- ・会員の子や配偶者が会員になる、あるいは作品を作る可能性は？

#### ( 2 ) なぜ松愛会限定か、だれでも入会可能にしては。

#### ( 3 ) 会員の紹介でもいいのでは？

- ( 2 )・( 3 ) は検討課題とする。

### 5 . 来月の開催日 ( 6 / 1 4 ) ワーキングスペースで。

### 6 . 次回のカメラ当番 ( 天野さん )



## 集めて残す

田淵健二

私が「集める」きっかけとなったのは、松下電器に入社した時からである。昭和32年の採用通知（封筒も）・辞令・給与明細の3点からスタートする。「従業員のみなさんへ～社長メッセージ」も残していたと思うが、昭和45年5月210から残っている。転勤が多く荷物の処理で、何処かに紛れこんでいるのでは？と思うがなかなか見つけ出せない。辞令は当初松下幸之助創業者が社長だったので、創業者名の辞令なので残していてもよかったと思う今日この頃である。

入社してラジオ事業部に配属され、直ぐに福岡営業所勤務を命ぜられ、大阪駅で課員の皆さんに万歳で見送られ、3等車（垂直の木製椅子）に乗って12時間後に博多に着く。当時の田頭所長に挨拶に行くと「お前何しに来たんだ！加勢に来たんか！」の第一声にびっくりしたものだ。又休日は田頭御殿の池掃除など寮生が狩り出され、終わると一杯飲んでドンチャン騒ぎをして寮へ帰る。今でも入社して最初の転勤の思い出として忘れられない。

営業所は5階建てのビルで、5階が寮・地下1階が食堂になっており宿直は2名で（課長も含む）通勤の人と組むと門限破りの寮生の対応にひと苦労する。「差し入れを持って帰らぬ者は入れるな」と手厳しい。通用口のポストの入り口から差し入れが確認出来たら扉を開けて対応したものだ。（宿直手当500円）

趣味のひとつである写真は自分でフィルム現像から焼き付けまでやるために安い給料の中月賦で器具一式を購入し、寮の隣の保健室を暗室代わりに活用しており翌日酔の臭いきつく看護婦さんに怒られていたがいろんな事に協力し続ける。転勤しても寮・我家の台所・風呂でやっておりカラー写真が主流になってやめる。器具・白黒フィルムはカラーフィルムも含め全て残しておりどの様な残し方をするか課題のひとつである。

当時の給料明細は手書きで青色のコピーで、知恵のある先輩は経理から白紙の給与明細をもらってきて数字の書き換えを頼まれ毎月書き換えた。（毎月文字が変わるとばれるので毎月書かされたものだ）

寮生は大きく二つに分かれており、「麻雀組」「飲み組」で当初麻雀組に参加してたが面白くないので、途中から飲み組に変わるがお金がなく、先輩が集金して帰って来ると経理に入金処理をして終わったら電話をするように云われ終わって電話をすると中州・柳橋などで飲ましてもらい先輩にお世話になった。若手同志で飲みに行くときはお金が無いので、当時流行った「アルサロ」に出かけビール1本に女性がテーブルに着いて380円で楽しめる。ある程度なじみになるとお客さんの残したビール瓶を持ってきてくれるなど懇意にしてくれ有り難かった。お礼に寮生の有志と一緒にサイクリングに行くなど楽しい青春時代であった。

結婚して子供が出来た頃から、給料日には必ず家で給料袋を開封し社長メッセージを読み上げ給料を家内に渡すのを習慣にしていた。振込になっても子供が我家に住んでいる間は続けていた。

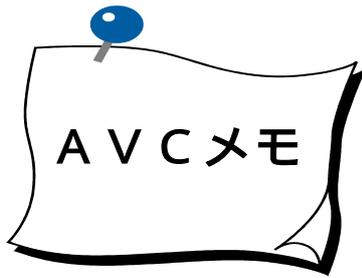
写真・8ミリ・ビデオは、家族・会社・各種会別に整理し保管しているが最近  
は孫別の誕生から成長記録も残している。

年賀状は 版画からスタートし今は写真入りで、宛先は自筆で書くようにしてお  
り 年度別に一目出来るようにファイリングしている。皆さんから頂いた年賀状は  
大切に残しており 年度別に箱に保管しているが、現在保管方法を検討中。  
(年賀状は昭和36年より保管)

現役・OBの頃 地方博覧会を 6回担当したが、これの写真・ビデオ・活動記録  
も残しており 苦労したが 楽しい思い出のひとつになっている。

集めると言うか 残しているものの中に、手帳があるが 1967年から現在も続けて  
おり 遡って調べ・確認すること多く現在でも重宝している。(手帳は 社員手帳)

\*他にも レコード・カメラ・ビデオ・カセットテープ・MD・CD・DVD・大工  
道具など 狭く古い家に天井まで棚を作り 溜め込んでおり、家内・子供達から部屋  
に入ると落ちてきそうだとか 後どうするの?とか云われているが 元気だから出来  
るのだと 自分で満足し 楽しんでいる 後期高齢者の私です。



## もはや死語

竹田幸男

一時期所属した元の職場のOB会に参加しました。最近会った人もあるが、その当時以来会っていない人にも久しぶりに再会し、懐かしい会合でした。HiFi（高忠実度）音声記録関係だったので、当時の用語を反芻してみました。もはや今となっては死語となっている言葉も多々あります。その一つが「ワウ・フラッタ」です。

音声記録の主役が磁気テープであった頃は「活語」でした。ワウフラッタとは、再生音声が滑らかに再生されず遅速が生じるために起こる現象です。テープレコーダにおいては、記録媒体であるテープを一定速度で走行させるためにフライホールやモーターに直結した、金属製の丸棒であるキャプスタンを一定回転速度で回転させ、このキャプスタンに圧接したゴム製のピンチローラとの間に磁気テープを挟んで定速走行させています。送り出された磁気テープは巻き取りリールを回転させて巻き取り、送り出すテープは供給リールから、たるまないように供給してやらなければなりません。供給リールとキャプスタンの間に消去ヘッド、録音ヘッド、再生ヘッドがあり、このヘッドの前を磁気テープが均一な速度で走行しなければなりません。この磁気テープが均一な速度で走行できないから「ワウ・フラッタ」が発生します。この要因は色々あり、専門的になりますから簡略しますが、結果としては音が不安定に感じたり音が震えたように聞こえ、音の品質が低下します。

ワウ、フラッタの測定には3,000ヘルツの正弦波を記録したテープを再生して、再生した出力の周波数の変動を読みます。3,030ヘルツから2,970ヘルツの間で変動すると±1%のワウフラッタ、ということになります。

変動周期の長いもの（変動がゆっくりしたもの）をワウといい、聴くものに不安感を感じさせます。変動周期の短いもの（変動が早いもの）は音が震えたようになり、音が濁ります。場末の映画館のトーキーの音楽が、もの悲しい響きを伴ったのも、このワウフラッタの所為です。

また同じように死語となったのに「速度偏差」があります。本来の再生速度に対して早いか、遅いかを示します。これも正確な音程が再生されず、音が高くなったり、または低くなったりして再生されます。

このワウ・フラッター、そして速度偏差が死語となったのも、デジタル技術のたまものです。デジタルの記録・再生では記録媒体（HDD、メモリーCD、DVD）からの再生は、正確なクロック周波数、例えば水晶発振による周波数

に合わせて再生します。このクロック周波数の変動は極めて僅かなので、再生周波数の変動は殆どありません。

こういう過去の技術を回顧しようと思って、これらの技術の基本を示したJIS（日本工業規格）を探しました。ところが、たとえば「JIS - C 5550 テープレコーダ」を見たいと思って日本工業標準調査会のHPを検索しても、これは廃止規格とされ、規格の検索すらできない状態となっています。テープレコーダは今でも細々と売られているが、そういうものは基準が無いまま作られているのか、と感慨を深くした次第です。